

区分	番号	学位論文	全著者名、論文名、掲載誌名、掲載年；巻（号）：ページ番号	国際共同
英文原著	1		Daisuke Watanabe, Akemi Yamashita, Kunihi Miura, Akio Mizushima, Effects on sexual function in Japanese patients with benign prostatic hyperplasia upon switching from combination therapy with $\alpha$ 1 blocker and dutasteride to combination therapy with tadalafil and dutasteride, The Aging Male, 2018 Nov 20:1-6. doi: 10.1080/13685538.2018.1538336. [Epub ahead of print]	
英文原著	2		Watanabe YS, Miura T, Okizaki A, Tagami K, Matsumoto Y, Fujimori M, Morita T, Kinoshita H. Comparison of indicators for achievement of pain control with personalized pain goal in a comprehensive cancer center. J Pain Symptom Manage. 55: 1159-1164, 2018.	
英文原著	3		Hamano J, Takeuchi A, Yamaguchi T, Baba M, Imai K, Ikenaga M, Matsumoto Y, Sekine R, Yamaguchi T, Hirohashi T, Tajima T, Tatara R, Watanabe H, Otani H, Nagaoka H, Mori M, Tei Y, Hiramoto S, Morita T. A combination of routine laboratory findings and vital signs can predict survival of advanced cancer patients without physician evaluation: a fractional polynomial model. Eur J Cancer. 105: 50-60, 2018.	
英文原著	4		Kako J, Kobayashi M, Kanno Y, Ogawa A, Miura T, Matsumoto Y. The Optimal Cutoff Point for Expressing Revised Edmonton Symptom Assessment System Scores as Binary Data Indicating the Presence or Absence of Symptoms. Am J Hosp Palliat Care. 35: 1390-1393, 2018.	
英文原著	5		Tagami K, Okizaki A, Miura T, Watanabe YS, Matsumoto Y, Morita T, Fujimori M, Kinoshita H. Breakthrough cancer pain influences general activities and pain management: a comparison of patients with and without breakthrough cancer pain. J Palliat Med. 21: 1636-1640, 2018.	
英文原著	6		Ishiki H, Yamaguchi T, Matsumoto Y, Kiuchi D, Satomi E. Effect of early palliative care: complex intervention and complex results. Lancet Oncol. 19: e221, 2018.	
英文原著	7		Miura T, Amano K, Shirado A, Baba M, Ozawa T, Nakajima N, Suga A, Matsumoto Y, Shimizu M, Shimoyama S, Kuriyama T, Matsuda Y, Iwashita T, Mori I, Kinoshita H. Low transthyretin levels predict poor prognosis in cancer patients in palliative care settings. Nutr Cancer. 2018 Nov-Dec;70(8):1283-1289.	
区分	番号		発表者名、発表タイトル（題目・演題・課題等）、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
国際学会発表	1		Tagami K, Miura T, Kawaguchi T, Matsumoto Y, Watanabe- Sumazaki Y, Uehara Y, Okizaki A, Masuda Y, Koga H, Yamaguchi T, Morita T. Correlation of health-related quality of life with quality of symptom management: based on personalized symptom goals in outpatient palliative care setting. Poster. MASSC/ISOO Annual Meeting, 28-30 June 2018, Vienna, Austria.	
国際学会発表	2		Atsufumi N, Shinobu M, Akiomi M. The difference between the transplant group and non-transplant group in terms of sexuality and fertility in the physical self-concept of childhood cancer survivors. 50th Congress of The International Society of Pediatric Oncology. Kyoto, Japan, November 16-19, 2018	
国際学会発表	3		Matsumoto Y, Fujisawa D, Morita T, Yamaguchi T, Umemura S, Miyaji T, Mashiko T, Kobayashi N, Okizaki A, Mori M, Kinoshita H, Uchitomi Y. Nurse-led, screening-triggered early specialized palliative care intervention program for advanced lung cancer patients : randomized controlled trial. Oral. PaCCSC 9th Annual Research Forum, 27 February 2018, Sydney.	
国際学会発表	4		Shinozaki T, Hayashi R, Murata M, Matsumoto Y. Symptom prevalence and functional status among patients with advanced cancers of the head and neck. Poster. MASSC/ISOO Annual Meeting (28-30 June 2018, Vienna, Austria)	

国際学会発表	5		Satomi E, Matsuoka H, Iwase S, Miyaji T, Kawaguchi T, Ariyoshi K, Oyamada S, Hasuo H, Tokoro A, Shinomiya T, Tsukuura H, Otake Y, Otsuka M, Hasegawa Y, Matsumoto Y, Kataoka Y, Otani H, Kidera Y, Aoyama M, Yamaguchi T. A Multi-center, Randomized, Double-blinded, Placebo-controlled Trial of Additive Effect of Duloxetine for Neuropathic Cancer Pain Refractory to Opioids and Gabapentinoids: JORTC- PAL08 (DIRECT study). Poster. ASCO Annual Meeting (1 -5 June 2018, Chicago, illinois)	
国際学会発表	6		R. Elgersma, T. Miura, Y. Matsumoto, M. Mori, F.D. Ottery, H. Jager-Wittenaar. Comprehensibility, difficulty, and content validity of the Japanese Scored Patient-Generated Subjective Global Assessment. Poster. 40th ESPEN Congress (1-4 September 2018, Madrid, Spain)	
国際学会発表	7		Dobashi C, Arao H, Aoki M, Mashiro E, Ichihara K, Matsumoto Y. Barriers as nurses' awareness on cancer treatment coordination in community-based integrated care. Poster. International Conference on Cancer Nursing (23-26 September 2018, Auckland, New Zealand)	
区分	番号	学位論文	全著者名、論文名、掲載誌名、掲載年；巻（号）：ページ番号	国際共同
和文原著	1		野里洵子, 垂見明子, 松本禎久, 西智弘, 宮本信吾, 木澤義之, 森田達也, 森雅紀. 緩和ケアの研修、自己研鑽に関する若手医師の考え: 質問紙調査の自由記述の質的分析. Palliat Care Res. 13: 175-79, 2018.	
和文原著	2		内田恵, 奥山徹, 明智龍男, 森田達也, 木澤義之, 木下寛也, 松本禎久. がん患者の苦痛に関するスクリーニング・トリアージを普及するためのワークショップの有用性の検討. Palliat Care Res 13: 273-279, 2018.	
和文原著	3		野里洵子, 宮本信吾, 森雅紀, 松本禎久, 西智弘, 木澤義之, 森田達也. 緩和ケアを専門としようとしている若手医師の研修、自己研鑽に対するニーズには何が影響するか. Palliat Care Res 13: 297-303, 2018.	
区分	番号		全著者名、論文名、掲載誌名、掲載年；巻（号）：ページ番号	国際共同
和文総説	1		上原優子, 松本禎久, 「麻薬性鎮痛薬」、medicina 2018; 55(4): 378-382.	
和文総説	2		大中俊宏、メンタルヘルスに役立つ指標・スコア、月刊地域医学、2018年；32（10）：893-899	
和文総説	3		宇井睦人. Gノート 2018増刊「終末期を考える 今、わかっていること&医師ができること、第1章 総論：終末期を考える、6：終末期は誰が診るべきか？」岡村知直ら編, 2018年, 南山堂	
和文総説	4		松本禎久: 早期からの緩和ケア コトハジメ 日本での実証研究の今. 緩和ケア. 28: 38-41, 2018	
和文総説	5		松本禎久. 非がん疾患の緩和ケア. 千葉県医師会雑誌 70: 89-90, 2018.	
和文総説	6		松本禎久. がん疼痛治療における新規オピオイド. 千葉県医師会雑誌. 70: 260-261, 2018.	
区分	番号		全著者名、書籍名、出版社名、出版年；巻（号）：ページ番号等	国際共同
和文著書	1		松本禎久: 緩和医療におけるインターベンション. 在宅医療バイブル第2版. 川越正平編. 日本医事新報社, 東京, pp407-413, 2018.	
和文著書	2		木澤義之, 松本禎久. 緩和医療特論. がん治療認定医教育セミナーテキスト第12版, 一般社団法人日本がん治療認定医機構教育委員会編, pp76-82, 2018.	
和文著書	3		奥野滋子. 「この生をいかに全うするか」、浄土宗総本山知恩院門跡伊藤唯眞猊下との対談、月刊『致知』2018年11月号、p 19-27、2018	

区分	番号	発表者名、発表タイトル（題目・演題・課題等）、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
国内学会発表	1	奥野 滋子, 森谷 記代子, 水嶋 しのぶ, 水嶋 章郎. 化学療法後の口腔内と舌のしびれ・疼痛に立効散加ハチミツが著効した前立腺がんの1症例. 第23回日本緩和医療学会学術大会（神戸）. 2018年6月15-17日.	
国内学会発表	2	吉川 征一郎, 福永 正氣, 永俣 邦彦, 飯田 義人, 大内 昌和, 高原 一裕, 東 大輔, 小濱 信太郎, 野本 潤, 水嶋 章郎. 第23回日本緩和医療学会学術大会（神戸）. 2018年6月15-17日.	
国内学会発表	3	小林直子, 松本禎久, 沖崎歩, 増田悠斗, 古賀浩子, 田上恵太, 五十嵐隆志, 渡邊有希, 上原優子, 三浦智史, 小川朝生. 入院がん患者に対する緩和ケアチームの介入効果～症状評価スケールを用いた後方視的検討～. ポスター. 第23回日本緩和医療学会学術大会（神戸）. 2018年6月15-17日.	
国内学会発表	4	田上恵太, 三浦智史, 川口崇, 松本禎久, 渡邊有希, 上原優子, 沖崎歩, 増田悠斗, 古賀浩, 山口拓洋, 森田達也. 生活の質と症状緩和の質との関係：Personalized Symptom Goalでの検証. ポスター. 第31回日本サイコオンコロジー学会総会（金沢）. 2018年9月21-22日.	
国内学会発表	5	大中俊宏、あまりにもcommonすぎる心身症～緊張性頭痛～、日本サイコオンコロジー学会、金沢、2018/9/21	
国内学会発表	6	千葉 吉史, 山口 琢児, 胡 愛玲, 丸谷 昂司, 引間 直子, 岩川 悟, 栗嶋 裕司, 岩間 裕美子, 大中 俊宏, 上原 優子, 渡邊 大祐, 水嶋 章郎, 花を介した軽園芸作業によるストレス軽減可能性の考察、日本ストレス学会、名古屋、2018/10/27	
国内学会発表	7	山下朱生, 渡邊大祐, 簗輪忠明, 三浦邦久, 水嶋章郎, 当院におけるダスティングモードを用いたTULの使用経験, 第32回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018年11月28日	
国内学会発表	8	吉田鈴, 宇井睦人, 高橋誠, 田中雄二郎, 地域包括ケア教育における学生による勉強会の教育効果について. 第50回 日本医学教育学会, 東京, 2018年8月4日	
国内学会発表	9	溝越けやき・飯村可菜・細田昇平・山田祐揮・長谷川優・堀越 健・藤谷直明・富田詩織・高木 博・宇井睦人, Generalist Party for the Young !! ～学生による、学生のためのキャリア相談会～. 第9回 日本プライマリ・ケア連合学会, 三重, 2018年6月16日	
国内学会発表	10	岩川悟, 永吉ひとみ, 笹野央, 西郷織江, 齊藤有希, 永原章仁, 高橋和久, 井関雅子, 寺尾泰久, 荒川隆太郎, 水嶋章郎. オピオイド誘発性便秘症に対するナルデメジンの有用性の検討、第12回日本緩和医療薬学会年会、東京ビッグサイト、2018年5月26日	
国内学会発表	11	松本禎久, 小林直子, 木村芳子. 病院と地域がつながる～早期からの専門的緩和ケア提供の介入研究および実臨床での取り組みから～. シンポジウム. 日本在宅医学会第20回記念大会（品川）, 2018年4月29-30日.	
国内学会発表	12	Matsumoto, Y. Integration of oncology and palliative care. Symposium. 第16回日本臨床腫瘍学会学術大会（神戸）, 2018年7月19-21日.	
国内学会発表	13	松本禎久. 腫瘍学と緩和ケアの統合 エビデンスとその実際. シンポジウム. 第16回日本臨床腫瘍学会学術大会（神戸）, 2018年7月19-21日.	
国内学会発表	14	松本禎久. メサドン～使用に際してのポイント～. シンポジウム. 日本ペインクリニック学会第52回大会（品川）, 2018年7月19-21日.	
国内学会発表	15	松本禎久. 再発/進行がん患者とのコミュニケーション—緩和医療医の立場から. シンポジウム. 第56回日本癌治療学会学術集会（横浜）, 2018年10月18-20日.	
国内学会発表	16	村田長子, 篠崎剛, 桑本麻美, 村山明子, 關本翌子, 松本禎久, 林隆一. 当院における進行頭頸部癌の死亡前1週間以内の症状と機能に関する観察研究. ポスター. 第23回日本緩和医療学会学術大会（神戸） 2018年6月15-17日	
国内学会発表	17	里見絵理子, 木内大佑, 松田能宣, 松本禎久, 内藤明美, 森田達也, 前田一石, 岩瀬哲. 進行がん患者の悪心嘔吐に対するオランザピンの有効性・安全性の検討：全国大規模多施設レジストリ研究（PhaseR悪心嘔吐研究）. 口演. 第23回日本緩和医療学会学術大会（神戸） 2018年6月15-17日	
国内学会発表	18	沖崎歩, 松本禎久, 小林直子, 前川智子. 多職種が関わるIOP. 口演. 第3回日本がんサポーターケア学会学術集会（福岡） 2018年8月31日-9月1日	
国内学会発表	19	山本里江, 三浦 智史, 松本 禎久, 沖崎 歩, 川口 崇, 田上 恵太, 森田 達也. Personalized pain goal達成と症状やQuality of Life、抑うつとの関連について. ポスター・口演. 第3回日本がんサポーターケア学会学術集会（福岡） 2018年8月31日-9月1日	

国内学会発表	20	徳山理佐子, 荒尾晴恵, 土橋千咲, 間城絵里奈, 青木美和, 市原香織, 松本禎久. 緩和ケアに携わる医師が捉えた地域包括ケアにおけるがん患者の併存疾患に対する望ましい医療連携. 日本緩和医療学会 第1回関西支部学術大会 2018年11月11日 大阪.	
国内学会発表	21	土橋千咲, 荒尾晴恵, 間城絵里奈, 青木美和, 市原香織, 松本禎久. 終末期を在宅で過ごすがん患者への地域包括ケアにおける障壁と望ましい連携. 日本緩和医療学会第1回関西支部学術大会 2018年11月11日 大阪.	
国内学会発表	22	吉川征一郎, 福永正氣, 永坂邦彦, 飯田義人, 大内昌和, 高原一裕, 本庄薫平, 行田悠, 東大輔, 小濱信太郎, 野本潤, 小平佳典, 百瀬裕隆, 水嶋章郎: サージカルフォーラム「緩和手術における術前評価指標の比較検討」. 第118回日本外科学会定期学術集会. 2018.4.5-7, 東京.	
国内学会発表	23	吉川征一郎, 石崎陽一, 福永正氣, 永坂邦彦, 飯田義人, 大内昌和, 本庄薫平, 行田悠, 高原一裕, 東大輔, 小濱信太郎, 野本潤, 大塚知博, 水嶋章郎: 一般演題口演「緩和手術適応指標の検討」. 第23回日本緩和医療学会学術総会, 2018.6.15-17, 神戸.	
国内学会発表	24	吉川征一郎, 野島美知夫, 水嶋しのぶ, 宮田 真美子, 吉岡 多美子, 野島 寛子石崎陽一, 稲木紀幸, 永坂邦彦, 大内昌和, 本庄薫平, 行田悠, 高原一裕, 松井亮太, 東大輔, 小濱信太郎, 野本潤, 大塚知博, 水嶋章郎: 「緩和手術における客観的適応決定指標の検討」. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018.11.1-3, 品川.	
国内学会発表	25	水嶋 章郎, 水嶋 しのぶ, 井上 大輔, 中野 真理子, 野上 典子, 岩川 悟, 永吉 ひとみ, 西尾 温文, 青木 由佳子, 引間 直子, 奥野 滋子. 家族への告知を拒否し、スピリチュアルケア・グリーフケアに難渋したHIV感染症治療中に中枢悪性リンパ腫を発症した一例. 第23回日本緩和医療学会学術大会 (神戸) . 2018年6月15-17日.	
区分	番号	発表者名、演題、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
特別講演・招待講演	1	奥野滋子、終末期医療と看取りのいま、東洋英和女学院大学大学院死生学研究所第8回連続講座、東洋英和大学大学院、2018年1月13日	
特別講演・招待講演	2	奥野滋子、水嶋章郎、疼痛コントロールなくして在宅医療は成り立たない、第52回日本ペインクリニック学会、東京、2018年7月19日	
区分	番号	発表者名・著者名、活動内容・タイトル等、掲載・発表情報等	国際共同
その他 (広報活動を含む)	1	奥野滋子、「迫られる選択、病院から自宅へ～在宅診療の現場から～」、N P O 法人ピンシャンコロリ研究会、小金井市市民会館、2018年5月27日	
その他 (広報活動を含む)	2	奥野滋子、「住み慣れた地域で最後まで暮らすためにどう生きるか」、新潟県立がんセンター主催第37回いのちをめぐる研究会、新潟県立がんセンター新潟病院、2018年10月26日	
その他 (広報活動を含む)	3	西尾温文、患者、家族のみなさんから教わったこと、第12回市川・浦安地区緩和ケア研究会、2018年3月29日	
その他 (広報活動を含む)	4	千葉吉史.ウツを防げ！農業が分泌する「幸せホルモン」、日経ビジネス 2018年1月12日	
その他 (広報活動を含む)	5	千葉吉史. 土に触れ 汗流し… 体験型農園 お薦め「ストレス軽減」実証 ホルモン計測半数超 “効果” 東京で全中と順天堂大、日本農業新聞、2018/11/18(日)	
その他 (広報活動を含む)	6	千葉吉史. 登場まで一歩、農業でウツを防ぐサービス、日経ビジネス、2018年12月7日	
その他 (広報活動を含む)	7	千葉吉史、水嶋章郎. 農作業でストレス軽減 実証調査を実施 – J A 全中、農業協同組合新聞、2018.11.21	

その他 (広報活動を含む)	8	千葉吉史. 2018年度環境省事業：地域循環圏・エコタウン低炭素化促進事業：「環境負荷低減効果及び地域循環型農業の見える化による「なぎビーフ」のブランド化強化事業」 参画	
その他 (広報活動を含む)	9	松本禎久（研究代表者）：汎用性のある系統的な苦痛のスクリーニング手法の確立とスクリーニング結果に基づいたトリアージ体制の構築と普及に関する研究 平成29年度総括・分担研究報告書, 2018.	
その他 (広報活動を含む)	10	松本禎久（研究代表者）：地域包括ケアにおけるがん診療連携体制の構築に資する医療連携と機能分化に関する研究に関する研究 平成29年度総括・分担研究報告書, 2018.	